

学芸員の仕事① 上市場馬頭観音の刻銘解読調査



(写真1) 上市場馬頭観音遠景



(写真2) 上市場馬頭観音オモテ面



(写真3) 斜光陰影刻銘解読法で銘文を調べる山口学芸員

新型コロナウイルス感染症予防のため、資料館は一時休館していました。しかし私たち資料館の学芸員には、そうしたときこそ出来る仕事があります。このたび上市場地区のセブンイレブン前T字路にある馬頭観音（写真1）などの調査を実施しました。

上市場馬頭観音は花崗岩（かこうがん）でできていて石質も粗く、年代の割には風化が進んでいます。刻銘（彫ってある文字）は読みづらくなり、ちょっと見ただけでは何が書いてあるかよくわからない文字もあります（写真2）。そこで、特別なやり方をこころみました。それは解読する石碑を黒い布で暗くして、懐中電灯で斜めに光を当てて陰影をつけて刻銘を読む方法です（写真3）。

その結果、上市場馬頭観音は、正面中央に「馬頭観世音」、正面右側に「大正元年」、正面左側に「十月日」とあり、右側面面に「右大多喜道」、左側面に「左一ノ宮道」という刻銘もあることがわかりました。裏面にはこの碑を設立した関係者と思われる人たちの名前もありました。馬頭観音は馬を供養するものなので、馬を使った人たちと思われます。今回の調査で、上市場馬頭観音は、関係者13人が協力して1912年10月に建てたこと、建てた場所が大多喜町と一宮町を結ぶ道なので左右側面に道標銘があり、道標も兼ねていたこともわかりました。学芸員は現場が第一で、調査法は現場で習い、現場の資料から学びます。そして成果は、文化財のある現場に還元されます。